

会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	平成 29 年度第一回教育課程編成委員会 バイオ・環境系分科会
開 催 日 時	平成 29 年 7 月 21 日 (金) 15 時 35 分～17 時 15 分
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 1001 教室
参 加 者	外部委員：6 名 内部委員：5 名 <p style="margin-left: 20px;">＜外部委員：6 名＞ (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照) 池上 正人 (NPO 法人日本バイオ技術教育学会理事長／東北大学名誉教授) 市川 和人 (トコスエンタープライズ株式会社) 早乙女 俊行 (ペントロンジャパン株式会社 取締役 品質管理本部本部長) 佐々義子 (NPO 法人くらしとバイオプラザ 21 常務理事／神奈川工科大学客員教授) 皆川 剛 (水 ing 株式会社 O&M 統括 O&M 技術・研修部 オペレーション技術課 課長) 藤沼 俊則 (NEC 株式会社 都市・交通基盤事業部／グローバルビジネス推進部 マネージャー 兼 医療ソリューション事業部エキスパート)</p> <p style="margin-left: 20px;">＜内部委員：5 名＞ 大江宏明 (学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー科科長 議長) 今野祐二 (学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 環境テクノロジー科科長) 井上綾子 (学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 環境テクノロジー科) 大藤道衛 (学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー科) 松井奈美子 (学校法人小小学園 専門学校東京テクニカルカレッジ バイオテクノロジー科、書記)</p>
会 議 録	<p>＜バイオ・環境系分科会＞15 時 35 分～17 時 15 分</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 議長挨拶 (大江) 2. 前回議事録確認 (大江) 3. 意見交換 <p>1) 環境テクノロジー科カリキュラム変更および実施状況について</p> <p>昨年度の学生は、数学に関して一律に学力が低く授業進行速度に問題を生じなかった。しかし今年度は、学力差が大きく学力の低い学生に速度を合わせると学力の高い学生が暇を持って余す状況となった。また 2 年次 1・2 期実施教科の内容が密であったため、就職活動と学習の両立ができない学生が多かった。これらの状況を踏まえ、科目実施時期の変更・授業進行など改善検討中である。</p> <p>【外部委員からのアドバイス・案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイオテクノロジー科にも環境テクノロジー科同様、化学の履修時間を増やす必要がある。そのため、環境テクノロジー科とバイオテクノロジー科の合同科目とし、学力別クラス編成し指導した方が良い ・学習効率は落ちるが、学生同士が教え合い学ぶことによる「教える・教わる」スキル向上は重要である。しかし学生任せにし、教職員が職務を怠ってはならない。 ・就職や編入を視野に、成績表の表記に「S」ランクを付けた方が良い。 <p>【内部委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学・化学に関して、今後合同授業実施も含め相談し検討する。 ・成績表記は学園全体で検討しなければならないため、すぐに改善はできないが今後検討したい。 <p>2) リアルジョブプロジェクトについて</p> <p>【外部委員からのアドバイス・案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は飲み物の代金を徴収することや、会費を回収するといったビジネスを視野にした運営を目指すべきである。(現金を使用できない場合は) 仮想通貨などを活用し、ニーズや、売り上げを得る事・運営の難しさについて R J P を通して勉強してもらいたい。 ・維持費が必要だが、デザインしたものや開発商品の特許申請を行うと良い。また、申請せずに特許申請方法の勉強でも良いのではないかな。

- ・東京テクニカルカレッジは情報処理科やWeb 動画クリエイター科などもあるため、広告など他学科と共同で幅広く活動するべきである。
- ・地すべり危険地区調査・ヒアリ調査などを行い、新聞にプレリリースすると学園の広告にもなるため良いのではないか。
- ・神田川水質調査において環境DNA調査を、バイオ環境で合同調査しても良いのではないか。
- ・養蜂について調査だけではなく、実際に行ってみてはどうか。

【内部委員】

- ・現在有志を集い、カフェを不定期に運営する計画が進行している。バイオテクノロジー科のメニュー班は飲み物・メニューの代金を含め、運営計画に参加している。今後その他の班においても、費用や運用・ニーズについてより重きを置くよう指導していきたい。
- ・インビトロフラワーや缶バッチなど現在特許を申請できるほど進行していない。今後、申請・申請方法の調査を誘導したい。
- ・環境テクノロジー科でのRJPは、現在多くのテーマを幅広い分野で進行している。そのため新たなテーマ（地すべり危険地区・ヒアリ・環境DNA調査など）は学生の希望を考慮した後、検討する。
- ・養蜂には多くの申請が必要であると同時に、他の養蜂業者との競争となる。また、住宅地が近い東中野での申請は難しいとされている。現在は(株)コロンバンの聞き取り調査を主としているが、今後養蜂を行うか検討する。

3) 入学前教育の状況

《配布資料》入学前教育プログラム アンケート自由記述一覧

試験的運営として、希望者（入学者44名中19名）に入学前教育プログラムを昨年度行った。文章力・基本計算力・人と社会といった3項目に関して事前学習を行った。(株)進研アドより「注意が必要である可能性がある学生」と判断された学生の数名に、実際に注意が必要であることがわかった。(休学1名、不登校1名、学力不足2名)

【外部委員からのアドバイス・案】

- ・有償価格が高いため、事前学習を行わなかったが学生がいたのではないか。eラーニングなどにし価格を抑え全員に事前学習をしてもらう事は可能か。
- ・金銭的・肉体的な負担となるため、強制的に全員受けさせるべきではない。
- ・受験時簡単な問題を解いてもらい、解けなかった生徒には必ず入学前教育を受けるよう指示してはどうか。

【内部委員】

- ・3月末に入学を決める学生もいるため、事前学習全員参加は期間的に困難である。全員参加の場合は、期間に関係なくできる学習に改善が必要である
- ・受験時簡単な問題を解いてもらう場合、アドミッションポリシーにその旨記載し受験者に報告する必要がある。

4) 留学生の状況

今年度は留学生見学时に学科学習内容をしっかり説明した。また、N1取得、化学専攻学生といった比較的学力の高い学生が入学したため、昨年のような履修に関する問題はいまのところ生じていない。

4. 平成29年度第二回教育課程編成委員会の連絡（大江）

平成29年11月22日(水)実施予定

5. 閉式の辞（大江）

17:15 終了

以上

